

I 令和7年度 入学者選抜の概要

1 学科及び募集人員等

課程	学科	専攻	入学定員	募 集 人 員						
				一般選抜	学校推薦型選抜		特別推薦型選抜	社会人選抜	有職者特別選抜	私費外国人留学生選抜
					県内枠	全国枠				
第一部 (昼間課程)	文学科	日本語日本文学専攻	30名	15名	10名	5名				若干名
		英語英文学専攻	30	15	10	5				
	生活科学科	食物栄養専攻	30	15	10	5				
		生活科学専攻	30	15	13	2				
	商経学科	経済専攻	35	20	10	5		若干名		
経営情報専攻		40	20	15	5		若干名			
第二部 (夜間課程)	商経学科		60	30			30名	若干名	若干名	
合 計			255	130	68	27	30	若干名	若干名	若干名

(注) 1 第一部の一般選抜に係る学力検査は大学入学共通テストと本学が実施する個別学力検査の組合せにより実施し、第二部の一般選抜は、調査書または高等学校卒業程度認定試験の合格成績証明書と本学が実施する個別学力検査により実施する。

2 全ての学科専攻での学校推薦型選抜、特別推薦型選抜(第二次選考を含む)の募集人員に欠員が生じた場合は、一般選抜の募集人員に加える。

3 合格判定・選考にかかわる各項目のいずれかの成績が著しく低い場合は、総合得点での順位に関わらず合否を判定することがある。(全学科専攻)

2 令和7年度入学者選抜の出願期間、試験日及び合格発表日

区 分	出 願 期 間	試 験 日	合 格 発 表 日
・学校推薦型選抜 ・特別推薦型選抜 ・社会人選抜	令和6年11月11日(月) ～ 令和6年11月15日(金)	令和6年12月6日(金)	令和6年12月16日(月)
・私費外国人 留学生選抜	令和6年11月11日(月) ～ 令和6年11月15日(金)	令和6年12月17日(火)	令和7年1月14日(火)
・一般選抜 個別学力検査	令和7年1月27日(月) ～ 令和7年1月31日(金)	令和7年2月19日(水)	令和7年3月6日(木)
・有職者特別選抜	令和7年2月17日(月) ～ 令和7年2月21日(金)	令和7年3月4日(火)	令和7年3月10日(月)

(参考) 大学入学共通テストの主な実施日程

- ・ 出願期間 令和6年9月25日(水)～10月7日(月)
- ・ 本試験 令和7年1月18日(土)～1月19日(日)
- ・ 追試験 令和7年1月25日(土)～1月26日(日)

Ⅱ 令和7年度 一般選抜の概要

1 学科及び募集人員等

課 程	学 科	専 攻	募 集 人 員	修業年限	備 考
第 一 部 (昼間課程)	文 学 科	日本語日本文学専攻	15名	2 年	一般選抜については、経済専攻と経営情報専攻とを併願できる。
		英語英文学専攻	15名		
	生活科学科	食物栄養専攻	15名		
		生活科学専攻	15名		
	商経学科	経 済 専 攻	20名		
		経 営 情 報 専 攻	20名		
	計		100名		
第 二 部 (夜間課程)	商経学科		30名	3 年	第二部の授業は18時から21時10分まで
合 計			130名		

(注) 第一部の一般選抜に係る学力検査は大学入学共通テストと本学が実施する個別学力検査の組合せにより実施し、第二部の一般選抜に係る学力検査は、調査書または高等学校卒業程度認定試験の合格成績証明書と本学が実施する個別学力検査により実施する。

2 対象者

- (1) 高等学校(中等教育学校を含む。以下同じ。)を卒業した者及び卒業見込みの者
- (2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者(通常の課程以外の課程により、これに相当する学校教育を修了した者を含む。)及び修了見込みの者
- (3) 学校教育法施行規則第150条(第6号を除く。)の規定により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者及びこれに該当する見込みの者

(注) 学校教育法施行規則第150条第7号の規定により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者として出願を希望する者は、本学の入学資格審査を受ける必要がある。

※ 入学を志願する者で、他の短期大学に在学中の者に対しては、転学の制度もある。

3 出願書類等

- ①入学志願票 ②受験票 ③入学志願者写真票 ④調査書等 ⑤受験票返送用封筒
⑥県条例に定める入学検定料(オンライン支払, 収入証紙等) など

(注) 2学科以上(又は2専攻以上)に出願手続をすることはできない。
ただし、第一部商経学科においては、希望者は経済専攻と経営情報専攻とを併願できる。
(この場合でも入学検定料は1専攻分と同額で可)

4 学力検査の教科・科目等

個別学力検査は、高等学校卒業の学力程度で、次表の教科について行う。

なお、第一部における大学入学共通テストの受験を要する教科・科目及び個別学力検査は次表のとおりである。

5 合格判定

大学入学共通テストの成績(第二部商経学科は調査書または高等学校卒業程度認定試験の合格成績証明書)及び本学が実施する個別学力検査の成績の総合得点により順位付けを行い、合格を決定する。

6 追加合格等

- (1) 入学手続締切り後に、入学辞退等により欠員が生じた場合、追加して合格者を発表する。
- (2) 追加合格の判定で、調査書等を参考にすることがある。
- (3) 志願者数の状況等を踏まえて、第二次募集を実施することがある。第二次募集を実施する場合は、実施を決定次第、本学ホームページに詳細を掲載する。

令和7年度 大学入学共通テストの利用教科・科目及び個別学力検査

学 科	専 攻	大学入学共通テストの利用教科・科目		個別学力検査
		教 科	科 目 名 等	
文 学 科	日 本 語 日本文学専攻	国 語 地理歴史・ 公 民 外 国 語	「国語」 「地理総合,地理探究」,「歴史総合,日本史探究」,「歴史総合, 世界史探究」,「公共,倫理」,「公共,政治・経済」 「英語」(リスニングを含む)	から1 国 語 出題範囲 下記※1を参照
	英 語 英文専攻	国 語 地理歴史・ 公 民 外 国 語	「国語」 「地理総合,地理探究」,「歴史総合,日本史探究」,「歴史総合, 世界史探究」,「公共,倫理」,「公共,政治・経済」 「英語」(リスニングを含む)	から1 外国語 出題範囲 下記※2を参照
生活科学科	食物栄養 専攻	国 語 数 学 理 科 外 国 語	「国語」 「数学Ⅰ」,「数学Ⅰ,数学A」,「数学Ⅱ,数学B,数学C」 「物理基礎/化学基礎/生物基礎/地学基礎」のうち化学基礎及び 生物基礎,「化学」,「生物」 「英語」(リスニングを含む)	から1 小論文
	生活科学 専攻	国 語 地理歴史・ 公 民 数 学 理 科 情 報 外 国 語	「国語」 「地理総合,地理探究」,「歴史総合,日本史探究」,「歴史総合,世界史 探究」,「公共,倫理」,「公共,政治・経済」,「地理総合/歴史総合/公共」 「数学Ⅰ」,「数学Ⅰ,数学A」,「数学Ⅱ,数学B,数学C」 「物理基礎/化学基礎/生物基礎/地学基礎」,「化学」,「生物」, 「物理」,「地学」 「情報Ⅰ」 「英語」(リスニングを含む)	から1 面接
商 経 学 科	経済専攻	国 語 地理歴史・ 公 民 数 学 情 報 外 国 語	「国語」 「地理総合,地理探究」,「歴史総合,日本史探究」,「歴史総合,世界史 探究」,「公共,倫理」,「公共,政治・経済」,「地理総合/歴史総合/公共」 「数学Ⅰ」,「数学Ⅰ,数学A」,「数学Ⅱ,数学B,数学C」 「情報Ⅰ」 「英語」,「ドイツ語」,「フランス語」,「中国語」,「韓国語」 から1 (「英語」はリスニングを含む)	から1 小論文
	経営情報 専攻	国 語 地理歴史・ 公 民 数 学 情 報 外 国 語	「国語」 「地理総合,地理探究」,「歴史総合,日本史探究」,「歴史総合,世界史 探究」,「公共,倫理」,「公共,政治・経済」,「地理総合/歴史総合/公共」 「数学Ⅰ」,「数学Ⅰ,数学A」,「数学Ⅱ,数学B,数学C」 「情報Ⅰ」 「英語」,「ドイツ語」,「フランス語」,「中国語」,「韓国語」 から1 (「英語」はリスニングを含む)	から1 小論文
第二部商経学科		大学入学共通テストは課さない。		小論文

- ① 「国語」と「外国語」以外の選択科目については、最も得点の高い科目を合否判定に利用する。
ただし、「地理歴史・公民」及び「理科」において2科目を受験した場合、第2解答科目は合否判定に利用しない。
- ② 生活科学科食物栄養専攻において「物理基礎/化学基礎/生物基礎/地学基礎」を選択する者は、「化学基礎」と「生物基礎」の受験を要し、その合計点を利用する。
- ③ 外国語として「英語」を選択した場合、英語のリスニングテストを受験しなかった者は、英語を受験しなかったとみなし、失格とする。ただし、大学入試センターの受験特別措置により、英語のリスニングテストが免除された者については、失格とせず、英語の筆記テストの点数を各専攻の配点に応じて換算する。なお、「リーディング」と「リスニング」の配点割合については、リーディング80%、リスニング20%とする。(200点満点時の配点例 … リーディング160点、リスニング40点)
- ※1 文学科日本語日本文学専攻の個別学力検査「国語」の出題範囲については次のとおり。
現代の国語、言語文化、論理国語、文学国語、古典探究
- ※2 文学科英語英文学専攻の個別学力検査「外国語」の出題範囲については次のとおり。
英語コミュニケーションⅠ、英語コミュニケーションⅡ、論理・表現Ⅰ、論理・表現Ⅱ、論理・表現Ⅲ
- (注) 旧教育課程履修者等に対する経過措置については(別紙)参照

○ 令和7年度一般選抜における教科・科目の配点

学 科	専 攻	大学入学共通テストの利用教科・科目等										大学入学共通テスト・個別学力検査等の配点							総合 得点	特別の選抜 方法等			
		教科	科 目 名 等									個別 学力 検査	国 語	地 理	公 民	数 学	理 科	情 報			外 国 語	個 別 学 力 検 査	調 査 書 等
			国語	歴史・ 地理・ 公民	外国語	英語	数学I	数学II	化学	生物	物理												
文 学 科	日本語 日本文学 専攻	国 外	「国語」 「地理総合、地理探究」, 「歴史総合、日本史探究」, 「歴史 総合、世界史探究」, 「公共、倫理」, 「公共、政治、経済」 「英語」(リスニングを含む)	から1	個別 学力 検査	国語	200	200	200	200	200	200	200	200	200	200	200	200	200	200	600	200	学校推薦型 私費外国人
文 学 科	英語 英文学 専攻	国 外	「国語」 「地理総合、地理探究」, 「歴史総合、日本史探究」, 「歴史 総合、世界史探究」, 「公共、倫理」, 「公共、政治、経済」 「英語」(リスニングを含む)	から1	個別 学力 検査	外国語	200	200	100	200	200	200	200	200	200	200	200	200	200	200	600	200	追加合格 第二次募集
生活科学科	食物栄養 専攻	国 外	「国語」 「数学I」, 「数学II」, 「数学A」, 「数学B」, 「数学C」 「物理基礎/化学基礎/生物基礎/地学基礎」のうち化学 基礎及び生物基礎, 「化学」, 「生物」 「英語」(リスニングを含む)	から1	個別 学力 検査	小論文	200	200	200	200	200	200	200	200	200	200	200	200	200	200	600	200	学校推薦型 私費外国人
生活科学科	生活科学 専攻	国 外	「国語」 「地理総合、地理探究」, 「歴史総合、日本史探究」, 「歴史 総合、世界史探究」, 「公共、倫理」, 「公共、政治、経済」, 「地理総合/歴史総合/公共」 「数学I」, 「数学II」, 「数学A」, 「数学B」, 「数学C」 「物理基礎/化学基礎/生物基礎/地学基礎」, 「化学」, 「生物」, 「物理」, 「地学」 「情報I」 「英語」(リスニングを含む)	から1	面 接	200	200	200	200	200	200	200	200	200	200	200	200	200	200	200	600	100	追加合格 第二次募集
商 経 学 科	経済専攻	国 外	「国語」 「地理総合、地理探究」, 「歴史総合、日本史探究」, 「歴史 総合、世界史探究」, 「公共、倫理」, 「公共、政治、経済」, 「地理総合/歴史総合/公共」 「数学I」, 「数学II」, 「数学A」, 「数学B」, 「数学C」 「情報I」 「英語」, 「ドイツ語」, 「フランス語」, 「中国語」, 「韓国語」 (「英語」はリスニングを含む)	から1	小 論 文	200	200	200	200	200	200	200	200	200	200	200	200	200	200	200	600	200	学校推薦型 社会人 私費外国人
商 経 学 科	経営情報 専攻	国 外	「国語」 「地理総合、地理探究」, 「歴史総合、日本史探究」, 「歴史 総合、世界史探究」, 「公共、倫理」, 「公共、政治、経済」, 「地理総合/歴史総合/公共」 「数学I」, 「数学II」, 「数学A」, 「数学B」, 「数学C」 「情報I」 「英語」, 「ドイツ語」, 「フランス語」, 「中国語」, 「韓国語」 (「英語」はリスニングを含む)	から1	小 論 文	200	200	200	200	200	200	200	200	200	200	200	200	200	200	200	600	200	学校推薦型 社会人 私費外国人
第二部 商 経 学 科					小 論 文	200	200	200	200	200	200	200	200	200	200	200	200	200	200	200	200	200	特別推薦型 第二次選考 社会人 追加合格 第二次募集

① 「国語」と「外国語」以外の選択科目については、最も得点の高い科目を合否判定に利用する。
 ② 第2解答科目は合否判定に利用しない。
 ③ 第2解答科目は合否判定に利用しない。
 ④ 「国語」と「外国語」以外の選択科目については、最も得点の高い科目を合否判定に利用する。
 ⑤ 第2解答科目は合否判定に利用しない。
 ⑥ 「国語」と「外国語」以外の選択科目については、最も得点の高い科目を合否判定に利用する。
 ⑦ 第2解答科目は合否判定に利用しない。
 ⑧ 「国語」と「外国語」以外の選択科目については、最も得点の高い科目を合否判定に利用する。
 ⑨ 第2解答科目は合否判定に利用しない。
 ⑩ 「国語」と「外国語」以外の選択科目については、最も得点の高い科目を合否判定に利用する。
 ⑪ 第2解答科目は合否判定に利用しない。
 ⑫ 「国語」と「外国語」以外の選択科目については、最も得点の高い科目を合否判定に利用する。
 ⑬ 第2解答科目は合否判定に利用しない。
 ⑭ 「国語」と「外国語」以外の選択科目については、最も得点の高い科目を合否判定に利用する。
 ⑮ 第2解答科目は合否判定に利用しない。
 ⑯ 「国語」と「外国語」以外の選択科目については、最も得点の高い科目を合否判定に利用する。
 ⑰ 第2解答科目は合否判定に利用しない。
 ⑱ 「国語」と「外国語」以外の選択科目については、最も得点の高い科目を合否判定に利用する。
 ⑲ 第2解答科目は合否判定に利用しない。
 ⑳ 「国語」と「外国語」以外の選択科目については、最も得点の高い科目を合否判定に利用する。
 ㉑ 第2解答科目は合否判定に利用しない。
 ㉒ 「国語」と「外国語」以外の選択科目については、最も得点の高い科目を合否判定に利用する。
 ㉓ 第2解答科目は合否判定に利用しない。
 ㉔ 「国語」と「外国語」以外の選択科目については、最も得点の高い科目を合否判定に利用する。
 ㉕ 第2解答科目は合否判定に利用しない。
 ㉖ 「国語」と「外国語」以外の選択科目については、最も得点の高い科目を合否判定に利用する。
 ㉗ 第2解答科目は合否判定に利用しない。
 ㉘ 「国語」と「外国語」以外の選択科目については、最も得点の高い科目を合否判定に利用する。
 ㉙ 第2解答科目は合否判定に利用しない。
 ㉚ 「国語」と「外国語」以外の選択科目については、最も得点の高い科目を合否判定に利用する。
 ㉛ 第2解答科目は合否判定に利用しない。
 ㉜ 「国語」と「外国語」以外の選択科目については、最も得点の高い科目を合否判定に利用する。
 ㉝ 第2解答科目は合否判定に利用しない。
 ㉞ 「国語」と「外国語」以外の選択科目については、最も得点の高い科目を合否判定に利用する。
 ㉟ 第2解答科目は合否判定に利用しない。
 ㊱ 「国語」と「外国語」以外の選択科目については、最も得点の高い科目を合否判定に利用する。
 ㊲ 第2解答科目は合否判定に利用しない。
 ㊳ 「国語」と「外国語」以外の選択科目については、最も得点の高い科目を合否判定に利用する。
 ㊴ 第2解答科目は合否判定に利用しない。
 ㊵ 「国語」と「外国語」以外の選択科目については、最も得点の高い科目を合否判定に利用する。
 ㊶ 第2解答科目は合否判定に利用しない。
 ㊷ 「国語」と「外国語」以外の選択科目については、最も得点の高い科目を合否判定に利用する。
 ㊸ 第2解答科目は合否判定に利用しない。
 ㊹ 「国語」と「外国語」以外の選択科目については、最も得点の高い科目を合否判定に利用する。
 ㊺ 第2解答科目は合否判定に利用しない。
 ㊻ 「国語」と「外国語」以外の選択科目については、最も得点の高い科目を合否判定に利用する。
 ㊼ 第2解答科目は合否判定に利用しない。
 ㊽ 「国語」と「外国語」以外の選択科目については、最も得点の高い科目を合否判定に利用する。
 ㊾ 第2解答科目は合否判定に利用しない。
 ㊿ 「国語」と「外国語」以外の選択科目については、最も得点の高い科目を合否判定に利用する。
 ㊿ 第2解答科目は合否判定に利用しない。

(別紙)

旧教育課程履修者等(注)に対する経過措置について

令和7年度入学者選抜(一般選抜)における旧教育課程履修者等に対する経過措置については、次のとおりとする。

(1) 大学入学共通テストにおける経過措置について

旧教育課程履修者等は、本学で課す大学入学共通テストの教科・科目(「地理歴史・公民」、「数学」及び「情報」)において、新教育課程により出題される教科・科目に加えて、旧教育課程により出題される教科・科目のうち、下表で「○」が付いている教科・科目を選択することができる。

なお、新教育課程履修者は旧教育課程により出題される教科・科目を選択解答することはできない。

学科	専攻	大学入学共通テスト(旧教育課程による出題科目)																
		地理歴史・公民									数学						情報	
		旧世界史A	旧世界史B	旧日本史A	旧日本史B	旧地理A	旧地理B	旧現代社会	旧倫理	旧政治・経済	旧倫理、旧政治・経済	旧数学I	旧数学I・旧数学A	旧数学II	旧数学II・旧数学B	旧簿記・会計	旧情報関係基礎	旧情報
文学科	日本語日本文学専攻		○		○			○	○	○	○							
	英語英文学専攻		○		○			○	○	○	○							
生活科学科	食物栄養専攻											○	○	○	○			
	生活科学専攻		○		○			○	○	○	○	○	○	○				○
商経学科	経済専攻		○		○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	経営情報専攻		○		○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

(2) 個別学力検査における経過措置について

文学科における出題範囲は以下のとおりとする。

日本語日本文学専攻：国語総合，現代文B，古典B

英語英文学専攻：コミュニケーション英語I，コミュニケーション英語II，英語表現I，英語表現II

(注) 「旧教育課程履修者等」には、下記以外の者が該当する。

- ① 高等学校(特別支援学校の高等部を含む。)に令和4年4月に入学し、平成30年告示学習指導要領に基づく教育課程(新教育課程)の下で学び、令和7年3月に卒業見込みの者
- ② 中等教育学校の後期課程に令和4年4月に進級し、平成30年告示学習指導要領に基づく教育課程(新教育課程)の下で学び、令和7年3月に卒業見込みの者

Ⅲ 令和7年度 学校推薦型選抜の概要

1 選抜方法の内容

本学では一般選抜（学力試験）によらない入学コースとして学校推薦型選抜を実施する。

令和7年度入学者選抜から、商経学科においても募集人員に全国枠を導入する。

高等学校長の推薦に基づく推薦書、志望理由書、調査書、選考試験（小論文）及び面接の結果を総合判定し、一般選抜学力検査を免除して合格者を決定する。

初めに、鹿児島県内に本校を有する高等学校からの受験者のみを対象として、総合判定に基づき、県内枠の合格者を決定する。次に、県内枠に合格しなかった受験者と鹿児島県外に本校を有する高等学校からの受験者を対象として、総合判定に基づき、全国枠の合格者を決定する。

商経学科においては、第二部商経学科の特別推薦型選抜で募集人員に欠員が生じた場合に限り、学校推薦型選抜に合格しなかった者のうち希望者を対象に第二次選考を実施する。

2 学校推薦型選抜を実施する学科・専攻・募集人員・対象高等学校

課 程	学 科	専 攻	募集人員(注)		対象高等学校
			県内枠	全国枠	
第 一 部 (昼間課程)	文 学 科	日本語日本文学専攻	10名	5名	全国の高等学校 (ただし、県内 枠については鹿 児島県内に本 校を有する高 等学校のみを 対象とする)
		英語英文学専攻	10	5	
	生活科学科	食物栄養専攻	10	5	
		生活科学専攻	13	2	
	商経学科	経 済 専 攻	10	5	
		経 営 情 報 専 攻	15	5	

(注) 県内枠の募集人員に欠員が生じた場合は、全国枠の募集人員に加える。全国枠は、県内に本校を有する高等学校からの受験者で県内枠に合格しなかった者、及び県外に本校を有する高等学校からの受験者を対象とする。県内枠又は全国枠を指定しての出願はできない。

3 対象者

対象高等学校を卒業見込みの者〔学校教育法施行規則（昭和22年文部省令第11号）第104条第3項の規定により、学年の途中においても、学期の区分に従い高等学校の卒業を認められる者も含む。〕で、次のいずれにも該当する者

- (1) 高等学校の学業成績・人物ともに優秀な者で、日本語日本文学専攻においては全体の学習成績の状況が4.0以上の者または国語の学習成績の状況が4.3以上の者、英語英文学専攻においては全体の学習成績の状況が3.5以上かつ外国語（英語）の学習成績の状況が4.0以上の者、文学科以外の専攻においては全体の学習成績の状況が4.0以上の者
- (2) 更に高度の学業を修得する熱意と能力を有し、学校長が責任をもって推薦できる者
- (3) 合格した場合は、入学することを確約できる者

なお、第一部商経学科の学校推薦型選抜を受験する者のうち、同時に第二部商経学科の特別推薦型選抜(第二次選考)への出願を希望する場合、出願時には第二部商経学科への入学を確約する必要はない。ただし、第二部特別推薦型選抜(第二次選考)の合格者で第二部商経学科への入学を確約する者は、入学確約書を第一部商経学科の学校推薦型選抜合格者と同じ期日に提出すること。

4 推薦人員

課 程	学 科	専 攻	推 薦 人 員
第 一 部 (昼間課程)	文 学 科	日 本 語 日 本 文 学 専 攻	各校の推薦人員については問わない。
		英 語 英 文 学 専 攻	
	生 活 科 学 科	食 物 栄 養 専 攻	
		生 活 科 学 専 攻	
	商 経 学 科	経 済 専 攻	各校の各学科から2名以内とする。
		経 営 情 報 専 攻	同 上

※ 1校に複数の課程（全日制，定時制，通信制）がある場合，各々の課程を1校とみなす。

5 出願書類等

- (1) ①入学志願票 ②受験票 ③入学志願者写真票 ④調査書等 ⑤受験票返送用封筒 など
- (2) 高等学校長の推薦書
特に著しい推薦事由がある場合は，特記事項に記載すること。
- (3) 本人の志望理由書
文化・芸術・技能面において顕著な成績や資格があれば記載し，それを証明できる書類も添付すること。
- (4) 県条例に定める入学検定料（オンライン支払，収入証紙等）

6 選考方法

課 程	学 科	専 攻	選 考 方 法
第 一 部 (昼間課程)	文 学 科	日 本 語 日 本 文 学 専 攻	推薦書・調査書・志望理由書，小論文，面接
		英 語 英 文 学 専 攻	
	生 活 科 学 科	食 物 栄 養 専 攻	
		生 活 科 学 専 攻	
	商 経 学 科	経 済 専 攻	
		経 営 情 報 専 攻	

(注) 不合格者の取り扱い

選考に合格しなかった者で一般選抜により本学への入学を希望する者は，あらためて出願書類を提出しなければならない。

IV 令和7年度 特別推薦型選抜の概要

1 選抜方法の内容

本学第二部では、一般選抜（学力試験）によらない入学コースとして、学習意欲と推薦事由のある者を幅広く受け入れる特別推薦型選抜を実施する。高校生（卒業見込み）、社会人ともに対象となる。

さらに、特別推薦型選抜の募集人員に欠員が生じた場合に限り、第一部学校推薦型選抜の志願者を対象とした第二次選考を実施し、門戸を広げている。

2 特別推薦型選抜を実施する学科・募集人員

課 程	学 科	募 集 人 員
第二部 (夜間課程)	商経学科	30名

3 対象者

次のいずれにも該当する者

- (1) 人物が優秀で、更に高度の学業を修得しようとする熱意と能力を有し、学業、仕事、社会的活動、スポーツ、家事などにおいてなんらかの推薦事由のある者
 - (2) 次のアからウのいずれかに該当する者
 - ア 高等学校(中等教育学校を含む。以下同じ。)を卒業した者及び卒業見込みの者
 - イ 通常の課程による12年の学校教育を修了した者（通常の課程以外の課程により、これに相当する学校教育を修了した者を含む。）及び修了見込みの者
 - ウ 学校教育法施行規則第150条（第6号を除く。）の規定により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者及びこれに該当する見込みの者
- (注)学校教育法施行規則第150条第7号の規定により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者として出願を希望する者は、本学の入学資格審査を受ける必要がある。
- (3) 合格した場合、入学することを確約できる者

4 選考方法

- (1) 調査書または高等学校卒業程度認定試験の合格成績証明書・推薦書(注1)・志望理由書
- (2) 小論文
- (3) 面接

5 特別推薦型選抜（第二次選考）

- (1) 実施の条件
第二次選考は、特別推薦型選抜の募集人員に欠員が生じた場合に限り実施する。
- (2) 対象者
第一部商経学科（経済専攻、経営情報専攻）の学校推薦型選抜を受験した者のうち、出願時に特別推薦型選抜（第二次選考）にも出願した者*で、学校推薦型選抜に合格しなかった者。

* 学校推薦型選抜の出願資格を満たす対象者で、「学校推薦型選抜」の商経学科（経済専攻又は経営情報専攻）に出願し、かつ「第二部商経学科特別推薦型選抜（第二次選考）への同時出願について」の欄で「出願する」を選択した者。

(3) 選考方法・合格者数

第一部学校推薦型選抜における小論文，面接（推薦書・志望理由書等を含む）および調査書を資料として活用し，学校推薦型選抜で出願した専攻区分に関係なく総合判定し，特別推薦型選抜の募集人員の欠員分を考慮して合格者を決定する。

(注1) 推薦書は，高等学校長，勤務先の知人，若しくは家族など本人を含む適切な人物による。

(注2) 不合格者の取り扱い

特別推薦型選抜に合格しなかった者で本学への入学を希望する者は，学生募集要項に従い，あらためて手続きすることなく一般選抜個別学力検査(第二部商経学科)を受験できる。

なお，有職者特別選抜で入学を希望する者は，あらためて出願書類を提出しなければならない。

V 令和7年度 社会人選抜の概要

1 選抜方法の内容

本学では、一般選抜（学力試験）によらない入学コースとして社会人を対象に社会人選抜を実施する。

2 社会人選抜を実施する学科・専攻・募集人員

課程	学科	専攻	募集人員
第一部 (昼間課程)	商経学科	経済専攻	若干名
		経営情報専攻	若干名
第二部 (夜間課程)	商経学科		若干名

3 対象者

次のいずれにも該当する者

- (1) 人物が優秀で、更に高度の学業を修得しようとする熱意と能力を有し、学業、仕事、社会的活動、スポーツ、家事などにおいてなんらかの推薦事由のある者
- (2) 次のアからウのいずれかに該当する者
 - ア 高等学校(中等教育学校を含む。以下同じ。)を卒業した者及び卒業見込みの者
 - イ 通常の課程による12年の学校教育を修了した者(通常の課程以外の課程により、これに相当する学校教育を修了した者を含む。)及び修了見込みの者
 - ウ 学校教育法施行規則第150条(第6号を除く。)の規定により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者及びこれに該当する見込みの者(注)学校教育法施行規則第150条第7号の規定により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者として出願を希望する者は、本学の入学資格審査を受ける必要がある。
- (3) 令和7年4月1日現在で年齢22歳以上である者
- (4) 合格した場合、入学することを確約できる者

4 選考方法

- (1) 推薦書・志望理由書・履歴書
- (2) 小論文(注1)
- (3) 面接

(注1) 推薦書は、勤務先の知人、若しくは家族など本人を含む適切な人物による。

(注2) 不合格者の取り扱い

社会人選抜に合格しなかった者で一般選抜により本学への入学を希望する者は、あらためて出願書類を提出しなければならない。

VI 令和7年度 有職者特別選抜の概要

1 選抜方法の内容

本学第二部では、一般選抜（学力試験）、特別推薦型選抜によらない入学コースとして、有職者特別選抜を実施する。有職者、就職内定者、過去に3年以上職に就いた経験のある者が対象となる。

2 有職者特別選抜を実施する学科・募集人員

課 程	学 科	募 集 人 員
第二部 (夜間課程)	商経学科	若干名

3 対象者

次のいずれにも該当する者

(1) 次のアからウのいずれかに該当する者

- ア 高等学校(中等教育学校を含む。以下同じ。)を卒業した者及び卒業見込みの者
- イ 通常の課程による12年の学校教育を修了した者(通常の課程以外の課程により、これに相当する学校教育を修了した者を含む。)及び修了見込みの者
- ウ 学校教育法施行規則第150条(第6号を除く。)の規定により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者及びこれに該当する見込みの者

(注) 学校教育法施行規則第150条第7号の規定により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者として出願を希望する者は、本学の入学資格審査を受ける必要がある。

(2) 次のアからウのいずれかに該当する者

- ア 出願時に有職の者
- イ 出願時に就職が内定している者
- ウ 過去に合計して3年以上、職に就いた経験のある者

(3) 合格した場合、入学することを確約できる者

4 選考方法

- (1) 志望理由書・履歴書
- (2) 面接

(注1) 高等学校卒業程度認定試験合格見込みの者は、それを証明できることを要する。

(注2) 有職、就職内定者、職に就いた経験については、臨時的雇用は含まない。

VII 令和7年度 私費外国人留学生選抜の概要

1 選抜方法の内容

本学では、外国人を対象とする入学者選抜を行う。

2 私費外国人留学生選抜を実施する学科・専攻・募集人員

第一部（昼間課程）の全学科・全専攻で募集する。募集人員は全体として若干名である。

3 対象者

日本国籍を有しない者で、次の（1）～（10）のいずれかに該当し、公益財団法人日本国際教育支援協会及び独立行政法人国際交流基金が実施する「日本語能力試験（JLPT）」N2以上を取得していること。ただし、日本語日本文学専攻に出願する者については、N1を取得していること。

- (1) 外国において、学校教育における12年の課程を修了した者（12年未満の課程の場合は、さらに、指定された準備教育課程（文部科学大臣指定準備教育課程一覧）又は研修施設の課程（文部科学大臣指定研修施設課程一覧）を修了する必要がある。）
- (2) 外国における、12年の課程修了相当の学力認定試験に合格した18歳以上の者（12年未満の課程の場合は、さらに、指定された準備教育課程（文部科学大臣指定準備教育課程一覧）又は研修施設の課程（文部科学大臣指定研修施設課程一覧）を修了する必要がある。）
- (3) 外国において、指定された11年以上の課程を修了したとされるものであること等の要件を満たす高等学校に対応する学校の課程（文部科学大臣指定高等学校に対応する外国の学校の課程一覧）を修了した者
- (4) 我が国において、外国の高等学校相当として指定した外国人学校（我が国において、高等学校相当として指定した外国人学校一覧）を修了した者（12年未満の課程の場合は、さらに、指定された準備教育課程（文部科学大臣指定準備教育課程一覧）を修了する必要がある。）
- (5) 高等学校と同等と認定された在外教育施設（文部科学大臣認定等在外教育施設（高等部を設置するもの）一覧）の課程を修了した者
- (6) 指定された専修学校の高等課程（文部科学大臣指定専修学校高等課程一覧）を修了した者
- (7) 外国の大学入学資格である国際バカロレア、アビトゥア、バカロレア、GCEAレベル、国際Aレベル、欧州バカロレア資格を保有する者
- (8) 国際的な評価団体（WASC, CIS, ACSI, NEASC, Cognia）の認定を受けた教育施設（国際的な評価団体認定外国人学校について）の12年の課程を修了した者
- (9) 高等学校卒業程度認定試験（旧大検）に合格した者（なお、18歳に達していないときは、18歳に達した日の翌日から認定試験合格者となる。）
- (10) 本学において個別の入学資格審査により認められた18歳以上の者

4 選考方法

文学科	日本語日本文学専攻	：小論文（日本語）※、面接	※古典に関するものを出题する
	英語英文学専攻	：英語、小論文（日本語）、面接	
生活科学科	食物栄養専攻	：小論文（日本語）、面接	
	生活科学専攻	：小論文（日本語）、面接	
商経学科	経済専攻	：小論文（日本語）、面接	
	経営情報専攻	：小論文（日本語）、面接	

Ⅷ 令和7年度 転学・再入学選考の概要

1 転学・再入学選考を実施する場合

- (1) 転学 志望する学科・専攻に欠員がある場合に行う。ただし、特段の事情を認めた場合には選考を行う。
- (2) 再入学 志望する学科・専攻の教育設備に余裕がある場合に限り行う。

※入学希望者は、選考実施の有無について出願開始日の1週間前までに本学に確認すること。

2 対象者

- (1) 転学 他の短期大学に在学中の者
- (2) 再入学 本学を卒業した者（令和7年3月31日までに卒業見込みの者を含む。）、又は本学を退学した後、令和7年3月31日現在で2年以内の者

3 選考方法

- (1) 転学 出願書類に基づく書類選考，小論文，面接
- (2) 再入学 出願書類に基づく書類選考，面接

4 出願期間，試験日及び合格発表日

- (1) 出願期間 令和7年2月12日（水）～2月18日（火）
- (2) 試験日 令和7年2月20日（木）
- (3) 合格発表日 令和7年3月6日（木）

○ 令和7年度学校推薦型・社会人・特別推薦型・有職者特別選抜における配点

区 分	学 科	専 攻	配 点			総合得点
			小論文	面 接	調査書	
学校推薦型	文 学 科	日本語日本文学専攻	100	* 100	100	300
		英語英文学専攻	100	100	* 100	300
	生活科学科	食物栄養専攻	100	100	* 100	300
		生活科学専攻	100	100	* 100	300
	商 経 学 科	経 済 専 攻	100	* 100	100	300
		経 営 情 報 専 攻	100	* 100	100	300
社 会 人	商 経 学 科	経 済 専 攻	100	* 100	—	200
		経 営 情 報 専 攻	100	* 100	—	200
	第 二 部 商 経 学 科		100	* 100	—	200
特別推薦型	第 二 部 商 経 学 科		100	* 100	100	300
有職者特別	第 二 部 商 経 学 科		—	* 100	—	100

(注) *印は、推薦書・志望理由書等の評点を含む。